

菱田議員

説明資料









平和池災害モニュメント

1951(昭和26)年7月11日のあの水害事故から60年の月日が経過しました。ここに改めて、平和池水害により尊い命を亡くされました御霊に、衷心より哀悼の意を表します。平和池水害は、亀岡市にとって決して忘れてはならない災害であり、その惨禍と教訓を後世に引き継ぐことこそ、「いま」を生きる私たちに課せられた大切な使命であると存じております。

亀岡市におきましては、毎年8月を平和月間とし、8月7日には「平和祈念式典」を挙げて過去の戦争で犠牲となられました戦没者とともに、平和池水害により命を亡くされました方々に対し、弔意と平和への決意を表しております。また、広く市民の皆様にも犠牲者の鎮魂と恒久平和の希求を呼び掛け、今日ある平和な社会は、過去の戦禍や災害を被られた方々の尊い犠牲のうえにあるものと、市民の皆様と認識を新たにしているところです。

地域防災の‘要’は、これら災害の歴史を風化させることなく、次の世代へ語り継ぐことです。平和池水害60年を機に、亀岡市民一人ひとりが命を大切に、安全で安心して暮らせるまちづくりをこれからも積極的に推し進めてまいります。

2011(平成23)年9月 亀岡市長 栗山正隆

平和池水害

1951(昭和26)年7月11日の集中豪雨によって亀岡では様々な被害を受けました。被害が最も大きかったのは年谷川上流の寒谷川に建設された平和池ダムが決壊したことで、篠村柏原(75人)や亀岡町(21人)などで100人近い方が亡くなりました。

7月12日付けの京都新聞によると、平和池決壊によって篠村柏原の約80戸(人口280人)は、あっという間に怒涛の水魔にのまれたと伝えています。全家屋は激しい水勢にさらわれ約40戸が流失、多数の生命が一瞬にして奪われました。

1951(昭和26)年7月11日豪雨による亀岡市内の被災状況

総死者114人(亀岡町21、篠村77、東別院村4、桧田村1、京都市6、その他5)
重軽傷者238人、家屋流失全半壊268戸、床上浸水152戸、床下浸水497戸

平和池(亀岡防水溜池)平面図

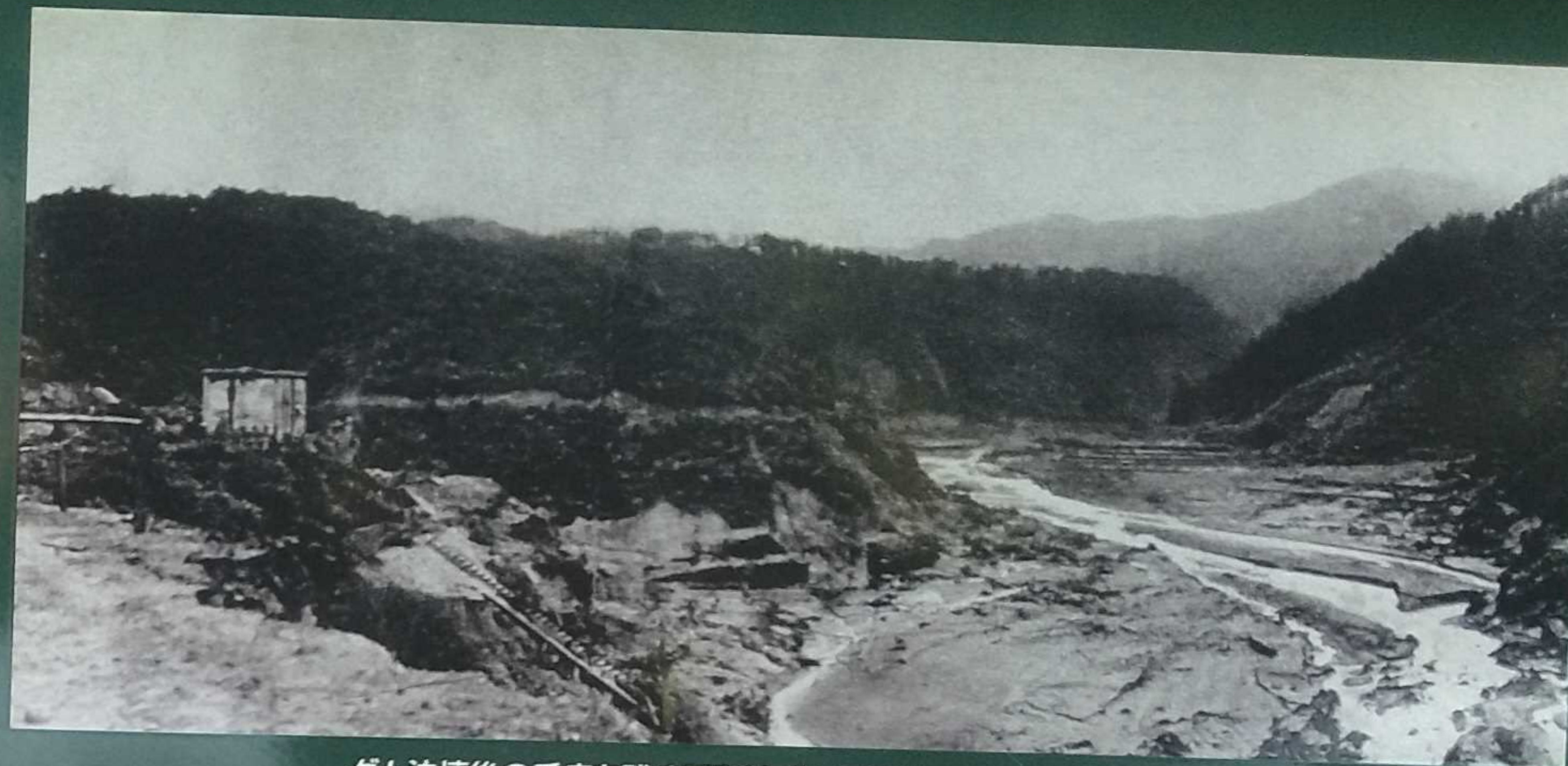


平和池ダム(農林省・亀岡防水溜池)の概要

位置	亀岡町大字古世小字寒谷(当時)
流域面積	360ha
受益面積	350ha
堰堤構造	堤高19.6m 天端幅6m 堤長82.5m
貯水量	221,042m ³
事業開始	昭和22年 7月
事業完成	昭和24年11月
総事業費	26,692千円

1951(昭和26)年7月11日 時間経過

7時	『雷鳴、豪雨で沛然となる』(京都府地方事務所)
9時	雷雨激しく不気味な灰褐色の空、年谷川・西川氾濫・集落内浸水
9時30分	年谷川右岸堤防決壊、年谷橋流失、集落洪水激化
9時40分	平和池ダム決壊
9時45分	山陰本線亀岡ー保津峡間不通
9時50分	亀岡町消防団非常サイレン
10時	ダムの鉄砲水到達・柏原水没、人家流失、電信電話不通
11時	濁流減水、消防団などの救助活動始まる
13時	念佛寺に救助本部設置
14時	『水引く、生存者調査始める』(柏原区日記)、通信復旧作業開始



ダム決壊後の爪痕を残す平和池ダム周辺(左の建物が斜樋操作室)



鉄砲水に襲われ、無残な姿をさらす民家(上矢田)



濁流が引いたあとの変わり果てた集落(柏原)



完成した平和池ダム(昭和24年11月)



